



公認スポーツファーマシスト



Sports Pharmacist

ごあいさつ

ドーピング防止活動をリードする人材として



河野 一郎氏
日本アンチ・
ドーピング機構 (JADA) 会長

日本におけるドーピング違反は、不注意で禁止物質を使用してしまう「うっかりドーピング」によるケースがほとんどで、これは、競技者側に必要な情報が行き渡っていないことが原因でおこっているのが実情です。日本代表クラスのトップアスリートになると、スポーツドクターやトレーナーといったスタッフが揃い、ドーピングに対しても相談できる環境が整いますが、スポーツ現場ではトップアスリートは一握りであり、トップを目指して挑戦している競技者がたくさんいます。この競技者たちを取り巻く環境は、多くの場合情報が手に入りやすく、身近に相談できる場所もないことが多いのです。

スポーツ活動に伴う薬物使用に関しては、現実的には薬剤師の方々が最初の窓口になるため、薬剤師の方には正確な情報をお持ちになっていただき、適切な情報をアドバイスしていただく必要があります。薬を必要とする競技者に使用可能な薬を伝え、最良のコンディション作りをサポートするのは、薬剤師にしかできない重要な仕事です。

日本薬剤師会の協力を受け始動した「公認スポーツファーマシスト制度」は、社会的な要請を踏まえて創られたものです。国民の健康を守るという薬剤師の役割をより一層明確化するこの制度を、是非ご活用いただきたいと思います。

スポーツファーマシストは、薬剤師の新しい職能発揮の場



児玉 孝氏
日本薬剤師会会長

ドーピング防止は、薬剤師の活躍が欠かせないという観点から、このスポーツファーマシストという構想が持ち上りました。その背景として、日本におけるドーピング事例の大半は、OTC医薬品や医療用医薬品に含まれる禁止薬物を知らずに摂取したことによる「うっかりドーピング」という実情があります。適切な情報を提供する仕組みがあれば、違反発生を回避できた可能性が大変大きく、薬理に関する知識、ドーピング防止に精通した専門家の養成が急務となりました。

日本薬剤師会としては、大変いい話であるという受け止め方をしました。基本的には、薬剤師の本来である「薬の適性使用」という啓発活動の大きな流れの一環であるという考えができますし、また、近年いわれている専門性の拡大の一つということでも捉えることもできます。つまり、ドーピング防止を含むスポーツの知識を備えた専門薬剤師です。

将来的には、ドーピング防止活動に加えて、アスリートの治療にあたってエビデンスに基づき、パフォーマンスに影響を与えない薬物治療についてのアドバイスを、薬剤師ができるようになるかもしれません。このように夢が広がる「公認スポーツファーマシスト制度」に大きな期待を寄せているところです。

● トップアスリートからのメッセージ

橋本 聖子氏 参議院議員(3期目)/元オリンピック選手(スピードスケート、自転車競技)

スポーツ界と薬剤師の連携強化で、
選手の人材育成・人材強化を

スポーツを通じて、今求められる社会性・社会貢献の意識が高い人材・人格を育成していく、その方法の一つがドーピング防止だと思います。

田辺 陽子氏 日本大学法学部准教授/柔道部 女子監督、元オリンピック選手(女子柔道)

トップ選手以外の選手に対しての
ケアが必要

例えば、「整形外科を受診するならこの病院」と同じ感覚で「薬の相談ならこの薬局」という環境が理想的です。顔を見て相談できることは、ものすごくメリットがあると思います。

松田 丈志氏 競泳選手(北京オリンピック男子200mバタフライ銅メダリスト)、コスモス薬局

選手の身近な相談相手になって、
選手を守ってほしい

選手としては、「うっかりドーピング」などで、日々自分が努力してきたことが水の泡になってしまうのが一番残念なことです。薬剤師には、若い選手、地方にいる選手の身近な相談相手になって頂けたらと思います。

公認スポーツファーマシスト認定制度

公認スポーツファーマシストは、最新のドーピング防止規則に関する正確な情報・知識を持ち、競技者を含めたスポーツ愛好家などに対し、薬の正しい使い方の指導、薬に関する健康教育などの普及・啓発を行い、スポーツにおけるドーピングを防止することを主な活動とします。薬剤師の資格を有し、所定の課程を修めた方が、日本アンチ・ドーピング機構より認定される資格制度です。

目的および方策

薬剤師会とJADAとの協調により、現在の薬剤師の活動の更なる充実

薬剤師会とJADAとの協調により、学校薬剤師による認定資格取得を推進

総合型地域スポーツクラブへの配置を働きかける

フィットネスクラブ、スポーツジムへの配置を働きかける



● 薬剤師からのメッセージ

大石 順子氏 静岡県薬剤師会医薬品情報管理センター所長

ドーピング防止活動は、薬剤師ならではの専門性が発揮できる仕事

薬を必要とする選手に使用可能な薬を伝え、最良のコンディション作りをサポートするのは、薬剤師にしかできない重要な仕事です。

笠師 久美子氏 北海道薬剤師会常務理事/北海道大学病院薬剤部副薬剤部長

薬剤師に対する期待に応える

多くの選手は、「薬剤師だったら知っているだろう。知っていてほしい」という期待があり、これに対して私たち薬剤師は応えていかなくてはならないと思います。

本田 昭二氏 岩手県薬剤師会常務理事

薬剤師の新しい活躍の場として

薬剤師が薬局の中で医療に携わることは大前提で、それ以外のさまざまなシーンで活躍する場があります。その選択肢のひとつとして、スポーツファーマシストがあると思います。

Sports Pharmacist

公認スポーツファーマシスト認定プログラム

● 資格対象者

- 基礎講習会の受講時点で薬剤師の資格を有する方。 ※年齢は問いません。

● 認定までの流れ

schedule	2月	公認スポーツファーマシスト認定プログラム募集概要公示 公示および受付はホームページにて行います
	3月	受講者募集受付
	5～7月	基礎講習会開催
	12～2月	実務講習会開催 各都道府県薬剤師会またはブロック単位で開催します
	3月	知識到達度確認試験実施 スポーツファーマシストホームページ上
		認定申請 知識到達度確認試験を修了後、認定申請書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、事務局に郵送
	4月	認定証発行

※諸事情により予定は変更される事があります。

● 認定後の更新について

- 毎年、実務講習会を受講してください。
- 認定期間中の3年目もしくは4年目に基礎講習会を受講し、知識到達度確認試験を行い、認定更新を行います。

専用ホームページをご覧ください

<http://www.anti-doping.or.jp/sportsparmacist/>

お問い合わせ

スポーツファーマシスト事務局

〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1 国立スポーツ科学センター3F JADA 内
Tel:03-5963-3383(直通) / 03-3907-3712 (10:00～18:00 / 土・日・祝日を除く)

スポーツファーマシスト認定業務センター

〒140-0001 東京都品川区北品川1-10-4 Y.Bビル6F NIA 内
Tel:03-5780-0044 (9:30～17:00 / 土・日・祝日を除く)